

フナムシ—海辺のゴキブリ?—

夏もまっ盛りになりました。海水浴などで海辺のいろいろな生物を観察することも多いと思います。海辺に行つてはじめて目につく動物が、岩場の海岸や波けしブロックなどの上をまるでゴキブリのように走り回っている虫でしょう。これはフナムシです。海辺にいますが、海水の中は苦手のようで、陸上ほど速く走れません。また、速く走れるのは陸上の固い場所だけで、砂浜は得意ではないからです。特に好きなのはでこぼこの深い穴のあいた岩で、ここに逃げ込まれたら、なかなか捕まえることはできません。

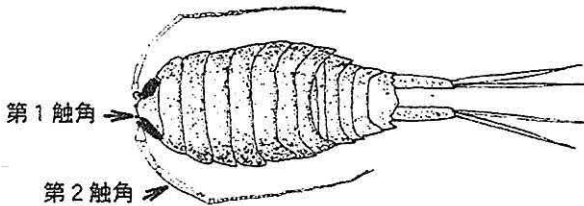


図1 フナムシの体

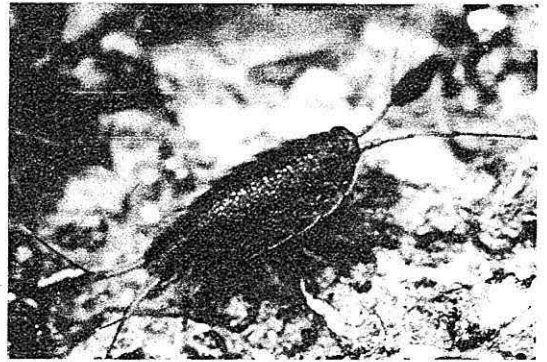


図2 岩の上のフナムシ

フナムシは何の仲間?

フナムシは、ゴキブリなどの昆虫でもなく、クモでもムカデでもありません。実はダンゴムシと同じで、エビやカニなどと同じ甲殻類です。甲殻類であるしように触角が2対あります(図1)。一見、フナムシには1対しかないように見えますが、虫めがねで長い触角(これは第2触角)の根元を見るととても小さな第1触角があります。また、足の数も多く歩くための足が7対あります(図2)。

ダンゴムシとフナムシは近い仲間と言いましたが、フナムシの方が、ダンゴムシよりも海にいる種類と似ています。例えば第2触角が海の種類のように長く、先の細い部分が50くらいの節からなっています。それに比べ、ダンゴムシでは2節しかありません。また、フナムシではオスの交尾器が左右1対有ります。これは海の種類に共通していますが、ワラジムシやオカダンゴムシでは1本しかありません。したがって、海の仲間と陸の仲間の間のものであると考えられます(表)。

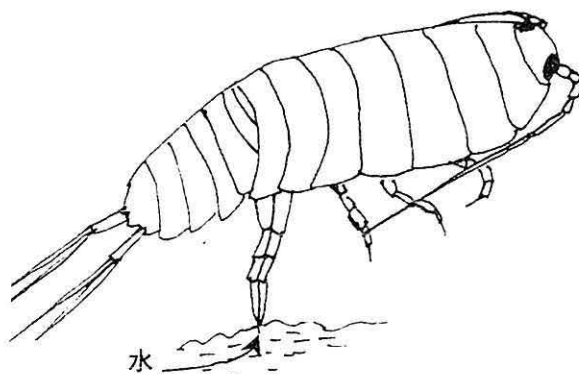
	第1触角	第2触角の先の方	空気呼吸のための器官	オスの交尾器	尻尾	すみか
海にいる近い仲間	発達	節が多い	無し	2対	長い	海
フナムシ	退化	節が多い	無し	2対	長い	海岸
ダンゴムシやワラジムシ	退化	2節	有り	1対	短い	陸

フナムシの生活

フナムシの子どもはお母さんの腹部のふくろの中で育ちます。夏の初めなどにたくさんの子どもの抱えたお母さんフナムシを見ることができます。そのため卵ではなく小さな子どもで袋からでてきます。フナムシは動物でも植物でも何でも食べ、打ちあがったゴミをそうじしてくれます。大きなフナムシはかなり陸の方に移動することもあります。その時、カニなどに食べられてしまうこともあります。

フナムシはダンゴムシとちがい、空気呼吸を行うための器官がないので、体の腹面を湿らせています。フナムシは後ろの方の左右のあしをあわせ、そのすきまで水を吸い上げ、腹面に水分をもたらし、体が乾燥しないようにしています。

(布村 昇)



水を吸いあげるフナムシ



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31

tel:076-491-2123 fax:076-421-5950

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成16年8月1日